

令和6年4月9日
政策説明会まで非公開

令和6年4月2日部長会議資料
教育委員会学校教育課

しなのきプランⅡ

(令和6年度版)

自ら学び 共に育つ

～ウェルビーイングの実現～

子どもたちの【自学自習の資質能力】の伸張を支援

長野市の教育理念

「明日を拓く深く豊かな人間性の実現」

長野市は 市民の皆様とともに 広い視野から 思いやりの心を育み
自律心や豊かな情操 想像力を養い 自然と文化あふれる郷土に 誇りを抱き
明日を拓くための 深く豊かな人間性の実現を目指します

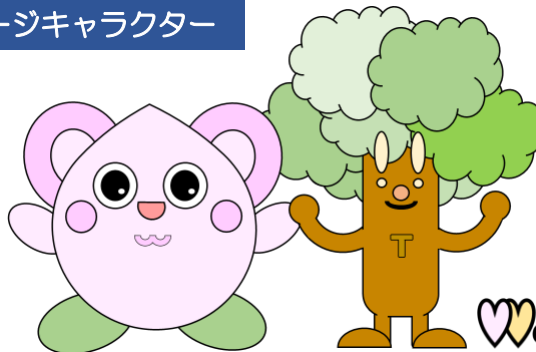
令和6年4月
長野市教育委員会



目 次

まえがき	3
長野市の現状	4～9
しなのきプランの成果と課題	
長野市教育振興基本計画	10
しなのきプランⅡ	11～23
1 しなのきプランⅡの基本的な考え方	11
2 しなのきプラン（H27～R5）からの継承	12
3 長野市が大切にしたい資質・能力	13
4 「しなのきFinder」	15～17
5 しなのきプランⅡ重点プロジェクト	19～23
評価指標と目標	25～29
コラム	
岡山大学 准教授 中山芳一氏	14
信州大学 准教授 高橋 史氏	18
信州大学 准教授 茅野理恵氏・下山真衣氏	24
市立中学校卒業生 Tさん・Kさん	30
参考	31,32

しなのきプランⅡイメージキャラクター



ウェルビィとティリアンが
手をつなぎ「協働」を表現

名前：ウェルビィ（ウェルビーイングから）

- ・川中島白桃をイメージ
- ・「？」をモチーフとした耳で「問い」を表現
- ・桃色の丸形で「幸福感」や「包摂性」を表現

名前：ティリアン（しなのきの学名から）

- ・しなの木をイメージ
- ・「！」をモチーフとした目で「わかる、できる」を表現
- ・濃淡をつけた葉で「多様性」を表現

長野市教育委員会では、2015年（平成27年）に、「グローバルな視野を持ちながら、ローカルにたくましく生きる自立した18歳の青年」を本市の目指す人間像とし、それに向かう具体的な施策として「しなのきプラン」を策定いたしました。

この「しなのきプラン」は、長野市の教育理念である「明日を拓く深く豊かな人間性の実現」に向け、長野市教育振興基本計画の学校教育分野の実施計画として位置付けました。策定された当時の小学校1年生が義務教育を終えるまでの9か年の計画とし、「しなのきプラン29」「第二期しなのきプラン」「第三期しなのきプラン」と、3年ごとに見直しを行ってまいりました。

現在、人口減少や少子高齢化や社会全体のデジタル化が加速する中、昨今の異常気象や自然災害の激甚化、新型コロナウイルス感染症の流行など、未曾有の出来事が次々に起こり、予測困難な激動の時代に突入してきています。そのため、教えることが明確であり、子どもが受動的に授業を受ける教育から、「自ら問いをもち、自ら学びを進め、共に育っていくための資質・能力【自学自習の資質能力】」を育む教育への転換が必要であると考えております。また、子どもたちが社会とのつながりの中で学び、自分の力で人生や社会をよりよくできるという実感をもつことができるように、家庭・地域・学校が連携・協働した教育活動の充実が求められています。

国においては、平成29年に「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」、令和5年に「こども基本法」を施行し、全ての子どもが安心して教育を受け、幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指しております。

そこで、本市では、知識及び技能の定着を重視している見方・考え方から脱却し、これまで以上に学習観や子ども観の転換を図ってまいります。そのため、全ての子どもたちの学習権を保障し、安心できる環境づくりと全ての子どもたちの【自学自習の資質能力】の伸張に向けた取組を推進してまいります。子どもたちのウェルビーイングを実現し、子どもたちが自ら学び 共に育っていくことを強く願い、本プランを策定いたしました。

令和6年4月

長野市教育委員会

しなのきプラン（H27～R5）の成果と課題

しなのきプランの取組に係る調査結果を比較

平成27年度からのしなのきプランでは「18歳までの一貫した教育」「学力観の定義」の2点を切り口に、指導・支援に取り組みました。なお、3、4の項目については、数値の捉え方が変わってきています。（少なければよいということではない）

※青色は、平成26年度の現状より改善された数値

重点		内容	H26		R 5	
一貫教育	1	きちんと椅子にすわって いられない児童 (学習習慣形成調査2月)	29%		17.9% (R4)	
	2	席から離れる児童 (同上)	7%		5.9% (R4)	
	3	不登校在籍率 (児童生徒の問題行動等生徒 指導上の諸問題に関する調査 長野市)	小6から中1で	3 倍 増	小6から中1で	1.84倍 増 (R4)
	4	いじめ認知件数 (同上)	小6から中1で	2 倍 増	小6から中1で	0.87倍 増 (R4)
	5	暴力行為件数 (同上)	小6から中1で	8 倍 増	小6から中1で	1.67倍 増 (R4)
	6	高校中退率 (同上)	1.6%		0.8% (R3)	
学力観の定義 ↓ 数値化	7	将来の夢や目標と見通し を持ち、努力を継続でき る力 (全国学力・学習状況調査)	小学校	106.2	小学校	108.9
			中学校	104.2	中学校	101.1
	8	規範意識を持ち、自己を コントロールする力 (同上)	小学校	99.9	小学校	105.8
			中学校	99.5	中学校	101
	9	他者を尊重し積極的に人 間関係を築こうとする力 (同上)	小学校	100.3	小学校	101.1
			中学校	101.1	中学校	97
	10	獲得した知識・技能及び 思考力・判断力・表現力 を駆使して、粘り強く課 題に対応し、行動する力 (同上)	小学校	96.1	小学校	99.9
			中学校	92.5	中学校	99.8

一貫教育と学力観の定義に係る取組は、一定の成果があったと捉えている。

しなのきプラン（H27～R5）の成果と課題

長野市の現状について、
「第三期しなのきプラン」
重点取組の項目から検証

徳

知・徳・体を一体的に育成

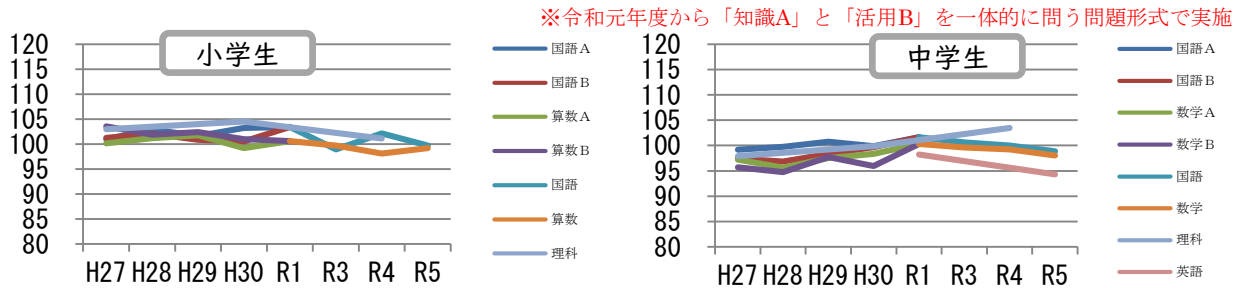
知

体

知

全国学力・学習状況調査

全国の正答率を100とした場合の本市の結果の推移（国語、算数・数学、理科、英語）



授業改善等により、どの教科も全国の正答率と同程度で推移することができた。

英語は全国を下回っているため、改善策を講じる必要がある。

徳

全国学力・学習状況調査（R5）

児童生徒質問紙 ※「自学自習の資質能力」に係る質問項目

全国100に対して、95～105は青
106以上は■の塗りつぶし
()はR4の数値

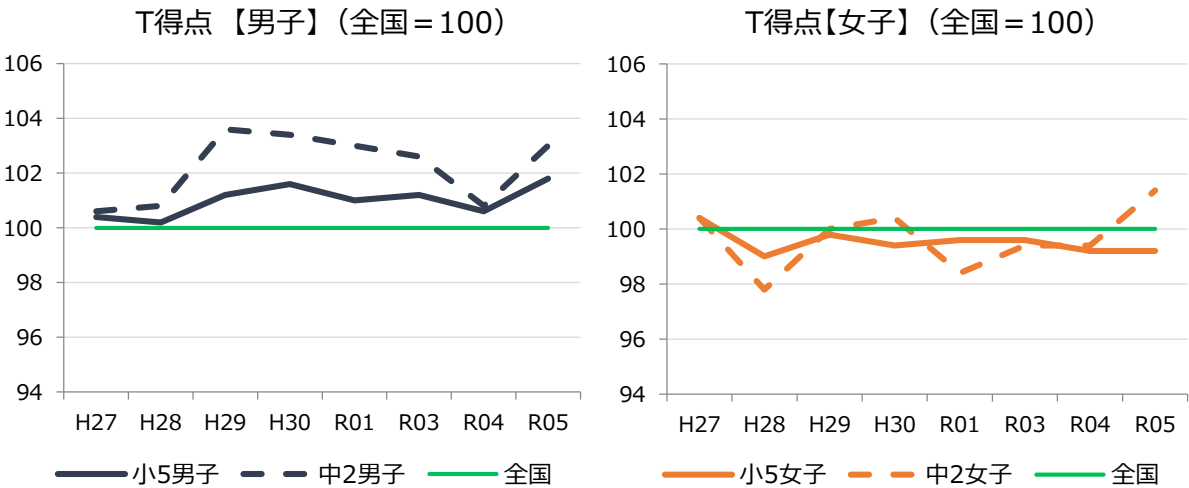
番号		質問事項	小学校	中学校
(4)	自学自習	自分には、よいところがあると思いますか	102 (100)	98 (101)
(16)		家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)	107 (104)	96 (102)
小(33) 中(37)		授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	102 (101)	98 (99)
小(37) 中(41)		学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	102 (103)	97 (99)
小(34) 中(38)	思考・判断・表現 コミュニケーション	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	104	96
(13)		自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	103 (101)	93 (94)
小(36) 中(40)		学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	100 (100)	94 (94)
小(42) 中(46)		道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	100 (101)	97 (98)
(9)	意識・規範	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	100 (100)	101 (100)
(8)	社会生活 との関わり	人が困っているときは、進んで助けていますか	100 (100)	98 (100)
小(26) 中(30)		地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	106	105
(11)	自主・自律	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	100	100
(7)		将来の夢や目標を持っていますか	101 (100)	97 (99)
(10)		困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	109	106
(15)	健康な心と体	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	101	98
(1)		朝食を毎日食べていますか	102 (102)	103 (103)
(2)		毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	105 (104)	105 (102)
(14)	協働性	友達関係に満足していますか	99	97
小(40) 中(44)		あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会(学級活動)で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	96 (97)	91 (94)

日頃の学校教育活動や家庭・地域での教育により、小学校、中学校ともに肯定的回答が全国と同程度か上回っている項目が多く、自学自習の資質能力の伸張に係る意識が高まってきたと考えられる。

しなのきプラン（H27～R5）の成果と課題

知・徳・体を一体的に育成

全国体力・運動能力、運動習慣等調査
体力合計点におけるT得点の推移※T得点とは、全国平均値（100）に対する体力合計点の相対的位置を示すもの



「体力向上グッと！プラン」等の施策を実施し、多様な運動機会を提供してきたことから、男女共に全国と同程度を維持している。

力量 教職員の力量向上

全国100に対して、95～105は青
106以上は紺の塗りつぶし
()はR4の数値

全国学力・学習状況調査（R5）
学校質問紙 ※教職員の「カリキュラム・マネジメント力の伸張」に係る質問項目

番号	質問事項	小学校	中学校
(19)	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	96 (96)	105 (98)
(20)	指導計画作成に当たっては、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外的資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている	99 (102)	104 (96)
(24)	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加を含む）	106 (104)	108 (120)

教育センターでは、指定研修や自主研修を実施し、教職員の力量向上に努めており、教職員の肯定的回答は、全国と同程度もしくは上回っている。

しなのきプラン（H27～R5）の成果と課題

安全

安全安心な学校づくりの推進

全国100に対して、95～105は青
106以上は緑の塗りつぶし
() はR4の数値

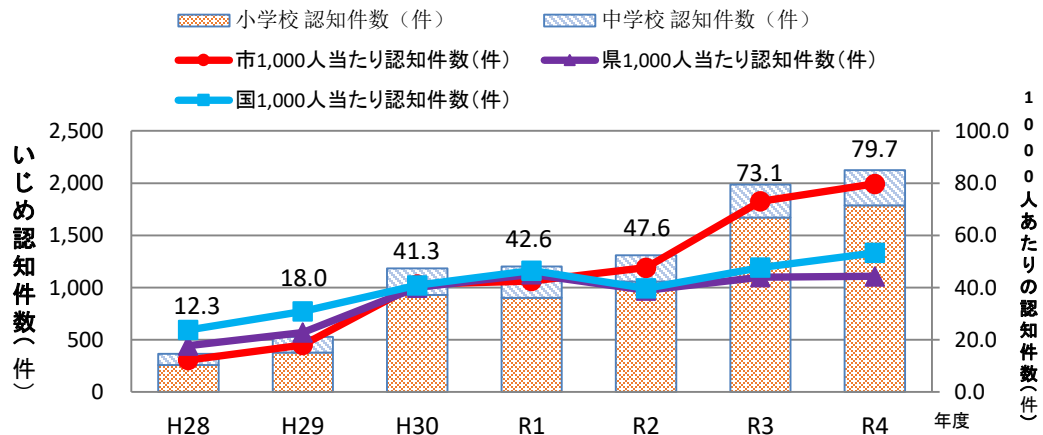
全国学力・学習状況調査（R5）

児童生徒質問紙・学校質問紙 ※「いじめ・不登校の未然防止・早期対応」に係る質問項目

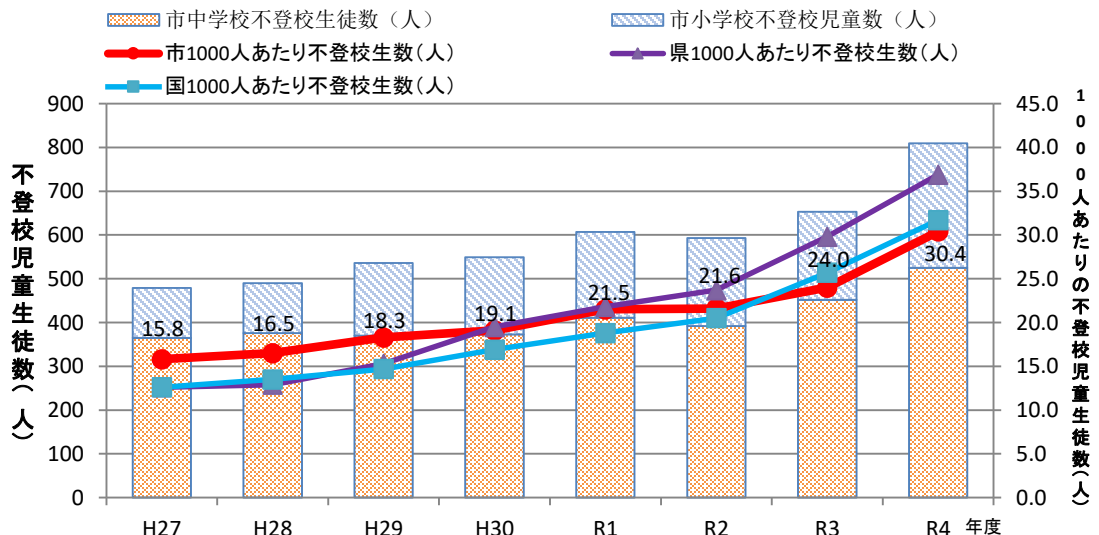
番号	質問事項	小学校	中学校
小(42) 中(46) 児童生徒	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	100 (101)	97 (98)
小(64-1) 中(72-1) 学校	児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、不登校児童生徒に対する学習活動等の支援の用途で、どの程度活用していますか。 (週3回以上を集計)	136	186

不登校児童生徒への支援策として、新たな不登校を生まない校内体制の構築、スクリーニング会議の実施、移行支援、居場所の充実等を実施しており、不登校児童生徒に対するICT機器の活用についても、全国を大きく上回っている。

いじめの認知件数の推移



不登校児童生徒数の推移



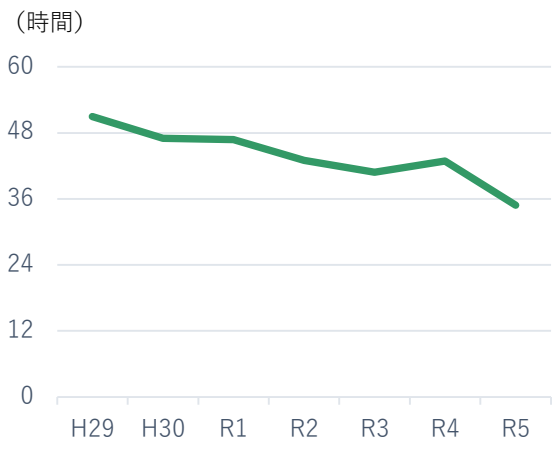
いじめの早期発見を強化し、認知件数の割合は令和2年度から県・国を上回り積極的認知が進んでいる。
不登校児童生徒数の割合は平成30年度より県、令和3年度より国を下回り、不登校児童生徒への支援に関する取組が進んでいる。

しなのきプラン（H27～R5）の成果と課題

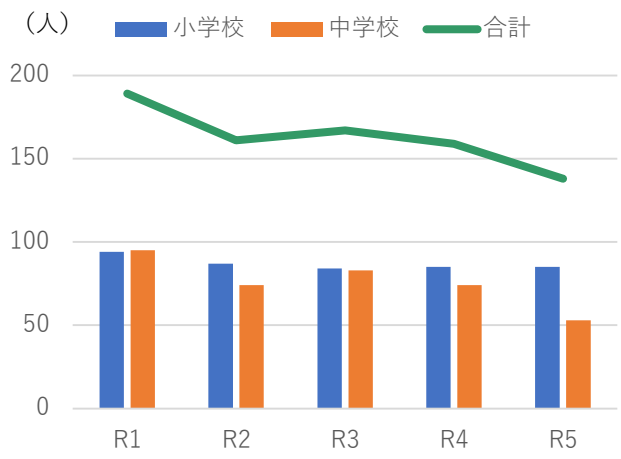
働き方

働き方改革の推進

教職員の時間外勤務時間の推移（時間）
※12月の平均時間



時間外勤務80時間超の教職員数（人）
※4～7月の平均時間



時間外勤務時間や時間外勤務80時間を超える教職員の人数が減少傾向にあるが、小学校においては、減少幅が小さいため、引き続き働き方改革を推進し、教職員の負担軽減を図っていく。

ギガ

GIGAスクール構想の推進

全国100に対して、95～105は青
106以上は紺の塗りつぶし
() はR4の数値

全国学力・学習状況調査（R5）
児童生徒質問紙・学校質問紙 「ICT機器を活用した学習状況やICT環境の整備」に係る質問項目

番号	質問事項	小学校	中学校
小(30) 中(34) 児童生徒	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか(肯定的な回答)	100 (99)	97 (97)
小(55) 中(63) 学校	前年度までに、一人一人に配備された・PC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか（週1回以上を集計）	97 (98)	94 (96)
小(57) 中(65) 学校	児童生徒が、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか	95 (95)	103 (102)
小(53) 中(61) 学校	教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか	98 (104)	100 (106)
(16) 学校	ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)に取り組んでいますか	102 (101)	102 (102)

通信環境に関する課題があるため、引き続き環境を整えていく必要がある。また、1人1台端末の効果的な活用等の在り方について、研究を進めていく。

しなのきプラン（H27～R5）の成果と課題

協働

学校間の連携、地域・家庭・事業所との協働と分担

全国100に対して、95～105は青
106以上は■の塗りつぶし
() はR4の数値

全国学力・学習状況調査（R5）

学校質問紙 「学校間の連携、地域・家庭・事業所との協働と分担」に係る質問項目

番号	質問事項	小学校	中学校
小(67) 中(75)	前年度までに、近隣等の小学校(中学校)と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	104 (86)	94 (109)
小(70) 中(78)	職場見学や職場体験活動を行っていますか ※「行っている」回答を集計	112 (157)	123 (263)
小(71) 中(79)	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	107 (108)	110 (110)
小(72) 中(80)	保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか	102 (106)	91 (113)
小(73) 中(81)	小(72)中(80)の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による取組は、教員の業務負担軽減に効果がありましたか	108	130
小(74) 中(82)	コミュニティスクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか	112	121

中学校では、令和5年度、学校間や保護者・地域と協働した取組の割合が全国を下回っている。
地域・企業と連携し、キャリア教育等の充実を図っていく。

活力 新たな学びの場の創造

活力ある学校づくり連携事業の取組

小規模校と大規模校の連携学校数

	小規模校と大規模校間の小小連携、中中連携をしている学校数 (活力ある学校づくり連携事業の取組一覧より)			
	現状 (令和2年度)	令和4年度	令和5年度	目標 (令和5年度)
小学校	—	18校	18校	18校
中学校	—	6校	5校(1校閉校)	6校
計	—	24校	23校(1校閉校)	24校

小規模校と大規模校の小小連携、中中連携している学校数では目標を達成した。
子どもたちにとって望ましい教育環境の整備を進めている。

【閉校(予定含む)】

R4年度末：信更中学校 R5年度末：信更小学校、七二会中学校

R6年度末：清野小学校 R7年度末：中条中学校 R8年度末：鬼無里中学校

【まとめ】

- 全国学力・学習状況調査等の結果を活用した授業改善や各種教育活動の工夫、学びに関わるPDCAサイクルの定着により、知・徳・体を一体的に育成していく意識が高まってきたと考えられる。
- いじめの認知件数や不登校児童生徒数が過去最高を更新しているため、子どもたちの状態を丁寧に把握し、安心して過ごせる環境づくりを推進していく必要がある。

長野市教育振興基本計画

長野市

第三次長野市教育振興基本計画（R4～R8）

長野市教育基本理念「明日を拓く深く豊かな人間性の実現」

キーワード 協働

基本的方向1 生きる力を育成する学校づくりの推進

学校は、ひとづくりの場です。予測困難な時代の中、これまで取り組んできた「基礎学力の定着」や「子どもたちの実態や地域の特色を生かした学習」を更に充実させることで「自学自習の資質能力」の伸張を図ります。また、創造性や豊かな感性、たくましく生きるための健康・体力を育む、主体的で対話的な深い学びを通して、全ての子どもたちの知・徳・体を一体的にバランス良く育み、生きる力の育成を目指します。

特に、子どもたち一人一人がかけがえのない尊厳を持った個人として自立し、互いを認め合いながら学び合う包摂的な学校づくりを推進していきます。

そして、このような学びや学校づくりを推進していくために、教職員の資質・能力の向上を図る教職員研修を充実させていきます。

基本的方向2 共に学び合い育ち合う地域づくりの推進

家庭は、豊かな情操を培う場です。家族の多様化に伴い、基本的な生活習慣を身に付け、社会生活における規範意識を醸成し、細やかな心のふれあいで「絆」を育んでいくことができるよう家庭の教育力の向上と、親と子が共に育ち合うことを支える地域づくりを推進していきます。

また、子どもたちの「心身の調和のとれた発達と自立」を目指して、保護者同士や、地域、学校、PTAなど、様々な人々のつながりを深めながら、相互に協働し子どもたちの育ちと学びを支えていける地域づくりを目指します。

基本的方向3 生涯学習と社会参画の環境づくりの推進

生涯にわたって学び続けることは、心を豊かにし、自己を高めることにつながります。

「人生100年時代」において、世代を超えて市民一人一人が主体的に学びに挑戦し探求していく機会とその環境を整備・充実させていくことで、市民一人一人の学ぶ意欲に応えるとともに、その学びを生かして地域づくりに関わることでできる環境づくりを推進していきます。

現代社会に対応した多様な学びの機会の充実、地域における歴史文化等の継承、持続可能な社会の担い手を育成する機会の充実などを通じて、全ての人が尊重され心豊かな生活を送っていくことのできる住民主体の地域づくりを目指します。

「第三次長野市教育振興基本計画概要」より引用

教育を取り巻く社会的背景が大きく変化し、行政や学校だけでは対応できない様々な複雑化・多様化した教育課題が増えています。「明日を拓く深く豊かな人間性の実現」のためには、家庭・地域・学校が連携し、学校だけでなく社会全体で、子どもたちの資質・能力をバランスよく育成することが大切です。



1 しなのきプランⅡの基本的な考え方

(1) プランの位置付け

しなのきプランⅡは、第三次長野市教育振興基本計画の学校教育分野を推進していく際の共通理念とその実施計画として位置付けるもので、令和6年度から令和8年度までの3か年計画とします。

(2) 目指す子どもの姿

「自ら学び 共に育つ ～ウェルビーイングの実現～」

(3) 基本方針

しなのきプラン（平成27年度～令和5年度）では、0歳～18歳までの一貫した教育として、学びを繋ぐ学校種間（幼保小中高）の連携による円滑な接続により、「小1プロブレム」「中1ギャップ」「高1クライシス」の解消に取り組みました。

また、長野市の学力観を定義し、「生きる力」をつけるための学力保障に取り組んだことにより、「指導改善サイクルの構築」「道德教育・人権教育の推進」「運動好きな児童生徒の増加」等の成果がありました。令和3年度からのしなのきプランでは、「自学自習の資質能力」の伸張を推進し、「諸調査を活用したPDCAサイクルの定着」「実践研究への支援」「ICTを活用した『個別最適な学び』と『協働的な学び』の推進」「学校の多様性と包摂性が高まる教育の充実」等を支援してまいりました。

さらに、学習指導要領では、育成すべき資質・能力を「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱として整理し、子どもにとって「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められています。

そこで、これまでの学習観や子ども観からの転換を図り、非認知能力を育み、認知能力としての学力等を支えることで、伸ばしていきたい【自学自習の資質能力】がより一層伸張されると考えました。

しなのきプランⅡでは、新たな調査『しなのきFinder』を導入し、子どもの状態を把握し、【子どもを観る・子どもの声を聴く・子どもと対話する】ことを通して、一人一人に適した環境づくりを推進します。あわせて、非認知能力を意識した教育活動の工夫や授業改善を推進し、全ての子どもたちの【自学自習の資質能力】の伸張を支援してまいります。

しなのきプランⅡ

2 しなのきプラン（H27～R5）からの継承（しなのきプランの主な取組）



目指す人間像

「グローバルな視野をもちながら、ローカルに逞しく生きる自立した18歳」

「第一期しなのきプラン」（平成27年度～29年度）
（しなのきプラン29）

0歳～18歳までの一貫した教育（学びを繋ぐ学校種間連携）
長野市の学力観を定義し、「生きる力」をつけるための学力保障

A 学力⇒知識・技能

B 学力⇒活用、思考力・判断力・表現力

C 学力⇒意欲・態度・・・長野市が大切にしたい資質・能力

「第二期しなのきプラン」（平成30年度～令和2年度）

確かな学力の育成（学力保障だけでなく知・徳・体をバランスよく伸ばす）

- 学校種間（幼保小・小小・小中・中高）連携の定着
- 標準学力検査（NRT）を軸とした「指導改善サイクル」の構築
- 全小中学校における道徳教育・人権教育の推進
- 運動好きな児童生徒の割合（全国比）が増加

「知・徳・体」を
バランスよく伸ばす

成果

社会の急速な変化に加え、未曾有の出来事（災害・感染症）に遭遇

目指す人間像

「困難な状況下でも『学び』を自ら進め、未来社会を切り拓いていく」

「第三期しなのきプラン」（令和3年度～5年度）

新たな明日を切り拓く力の育成

「自学自習の資質能力」の伸張

- 諸調査を活用したPDCAサイクルの定着
- 「自学自習の資質能力」の伸張に向けた実践研究への支援
- ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の推進
- 学校の多様性と包摂性が高まる教育の充実

明日を切り拓く力
（自学自習の資質能力）
の育成



「しなのきプランⅡ」



しなのきプランⅡ

3 長野市が大切にしたい資質・能力

H27～ しなのきプラン29

C学力…「未来力」「自律力」「絆力」「実践力」

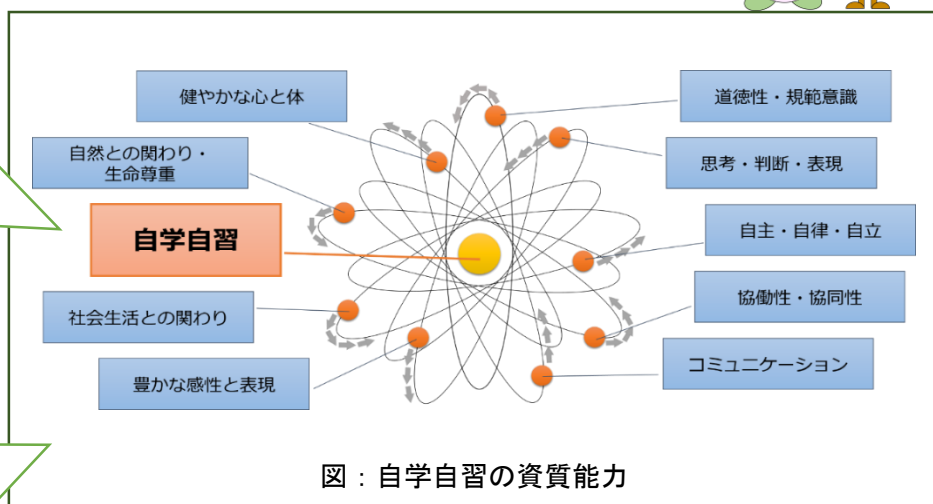
R3～ 第三期しなのきプラン

「自学自習の資質能力」



学校での学びを、将来の「明日を切り拓く力」へとつなぐため、子どもたちが自ら問いをもち、自ら学びを進める、「自学自習」を中核に据えた。

子どもたちの「自学自習」の姿を伸張するためには・・・と考え、その周りを囲むように9つの項目を位置付けた。



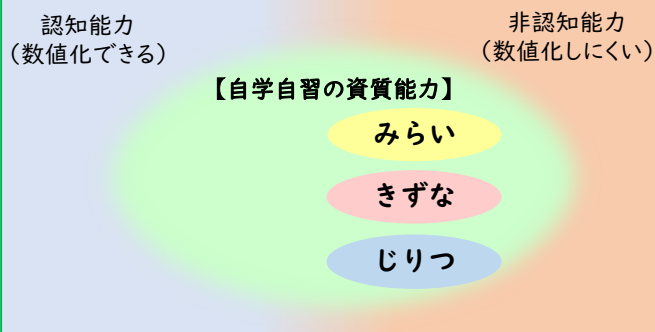
R6～ しなのきプランⅡ

【自学自習の資質能力】

【自学自習の資質能力】とは、

「自ら問いをもち、自ら学びを進め、
共に育っていくための資質・能力」

※しなのきプランⅡで再定義



【自学自習の資質能力】の観点と行動

【自学自習の資質能力】の位置づけ

3つの観点	9つの行動
未来に向かって 自分を高める 【みらい】	夢や目標に向かって継続して努力する（意欲・粘り強さ等）
	自信をもって行動し新しいことに挑戦する（自信・チャレンジ等）
	自ら問いをもち、自ら学びを進める（自学自習・計画性等）
他者を思いやり つながる 【きずな】	自分の考えを伝え、他者の考えを聴く（コミュニケーション力等）
	自分を受け入れ、他者を尊重する（自己受容・他者理解・共感性等）
	折り合いをつけながら、他者と協働して取り組む（協調性・折衝力等）
自分をよりよい 状態にする 【じりつ】	規範意識をもち、ルールやマナーを守る（規範意識・自制心等）
	自分の感情や行動をコントロールする（自己コントロール・楽観性等）
	経験から学び、前向きに取り組む（回復力・適応力等）

しなのきプランⅡで子どもたちの未来を拓く！

岡山大学教育推進機構准教授 中山 芳一

みなさんは、「非認知能力」という言葉をご存じですか？ 漢字ばかりで難しいと思われた方もいらっしゃるかもしれませんが、まずはこちらをシンプルにご説明しましょう。

非認知能力とは…「認知能力(点数で測定できる学力など)」ではない力のことです！

そんな力、めちゃくちゃいっぱいありますよね。その中でも、いま、とても大切な力だとされているのが、粘り強さややる気、思いやりなど…私たちがこれまでも「〇〇な心」と言ってきたようなものです。最近では、こうした「心」を単に大切にしたいと思っているだけではなく、未来を生き抜いていく子どもたちに確実に育んでいこうという動きが活発になってきました。だから「能力」という言葉がマッチしているのかもしれません。

しかし、「非認知能力」という言葉のままだと、やっぱりフワツとしたままになってしまいますので、そこで「しなのきプランⅡ」が必要になってくるんです！ このプランでは、【みらい】【きずな】【じりつ】という3つの非認知能力のグループをつくって、どの力を伸ばしていきたいのかを明確にすることができています。

そのため、私たち大人も、そして子どもたち自身も、学校や家庭で、授業や行事で、特に伸ばしていきたい力を意識することができたり、いまでの力が伸びてきているのかを自覚することができたりします。

すでに、いくつかの研究結果によって非認知能力(心)が育まれることで認知能力(学力)も高められていくといわれています。苦手なところを克服してテストの点数アップを目指すときに、いまの自分に必要な力(意識したい非認知能力)は、【みらい】なのか、【きずな】なのか、【じりつ】なのか…そんなことを子どもと大人が一緒になって考えていけたらよいですね。

いま、私がかかわっている小中学校や高校では、学校生活の8割を占めているといわれている授業を通して、認知能力と非認知能力と一緒に育んでいこうという取組がされています。これから長野市でもこうした取組が展開していきそうです。まさに、「しなのきプランⅡ」を絵に描いた餅にしないための取組であり、長野市の子どもたちの未来を拓いていくための大切な挑戦だと確信しています。

4 「しなのきFinder」

(1) しなのきFinder（ファインダー）とは

数値化しにくい子どもの状態を測定する調査。

世界的に実施されているSDQ（Strength and Difficulties Questionnaire：子どもの強さと困難さアンケート）を取り入れ、学びの土台となる「安心して過ごせる環境」や「周りの人との関係」に関する質問と、「自ら学びを進めるための学習意欲」や「学習スキル」に関する質問により構成された、子どもの状態や非認知能力を測定する調査。

※信州大学教育学部と長野市教育委員会で共同開発

(2) 名前の由来

見えないものを「見つけ出す」という意味の「Find」に、良好な状態という意味の「Fine」を含ませて、『子どもの状態を把握し、よりよくするもの』という意味を込めて「しなのきFinder」と命名

(3) 目的

大人の「子ども理解」・子どもの「自己理解」を深める

学 校：子どもの実態に合わせた子どもを中心とした学校運営につなげる

教 師：子ども理解を深め、個に応じた指導・支援、授業改善につなげる

子ども：自己理解を深め、物事の考え方や取組の向上につなげる

保護者：子どもの強みや状態を理解し、学校と連携して子どもの成長を支える

(4) 内容

調査の結果を【みらい】【きずな】【じりつ】の3つの観点で数値化し、「学校レポート」「学級レポート」「個別レポート（学校用）」をデータにて学校へ返却し、学校づくりや学級学年経営、児童生徒理解に活用する。また、「個別レポート（家庭用）」を児童生徒・保護者に返却し、自己理解や物事の考え方、今後の取組に活用する。

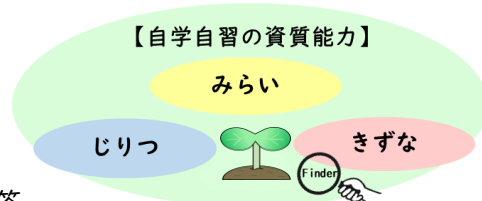
(5) 調査方法

対 象 者：小学4年生～中学3年生

実施時期：年2回（春・秋）

実施時間：20～30分

実施方法：1人1台端末より入力フォーム（Web）へ回答

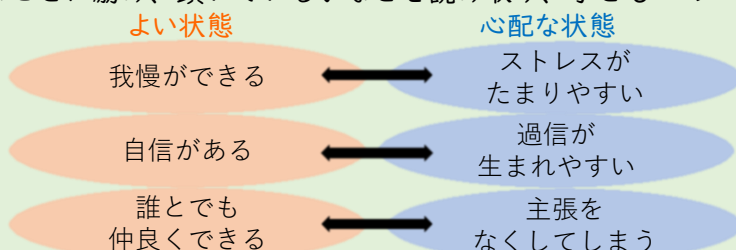


【レポートの見方】

- ・しなのきFinderのレポートは、子どもを評価するものではなく、子どもの状態を観るもの
 - ・Finderの数値をあげることが目的ではなく、数値の背景を理解し、生活や学習改善に生かすもの
- ⇒子どもが今どんな気持ちでいるか、どんなことに励み、躓いているかなどを読み取り、子どもへのアプローチなどを検討

【非認知能力の両義性と配慮点】

- ・非認知能力は、状況に依存されやすい力
 - ・よい状態と心配な状態の両義性
 - ・非認知能力は、高すぎても弊害が発生
- ⇒数値の低い子どもと高い子どもへの配慮



数値が高い子どもの状態は…

しなのきプランⅡ

(6) 各校での活用方法（例）

※以下を年間2サイクル実施



【自学自習の資質能力】が伸張し、目指す子どもの姿を実現

ポイント！！
意識すれば伸びる



そのために・・・

- ・教師と子どもが観点や行動を共有し、意識して行動する
- ・子どもの感情へ働きかける仕掛けを活動に取り入れる
- ・児童生徒の振り返りの場面を設定する

しなのきプランⅡ

(7) 【自学自習の資質能力】伸張シートの活用

※本シートは、学校・学年・学級・児童・生徒等の実態に合わせて、アレンジして活用することもできます

【自学自習の資質能力】伸張シート

STEP 1 設 定	〈学校教育目標〉 〈目指す子どもの姿〉	〈目指す姿の実現に向けて伸張したい観点と行動〉 【みらい】 【きずな】 【じりつ】
		
STEP 2 共 有	研究テーマ（自己課題）	具体的な取組（計画）
STEP 3 計 画 実 践		
STEP 4 見取り	しなのきFinderの実施（第1回） 	
	結果分析 【伸びてきた観点と行動】	取組の振り返り（評価◎○▲未）
STEP 5 フィード バック		
STEP 2 共 有	研究テーマ（自己課題） 更新	具体的な取組（計画）
STEP 3 計 画 実 践		
STEP 4 見取り	しなのきFinderの実施（第2回） 	
	結果分析 【伸びてきた観点と行動】	取組の振り返り（評価◎○▲未）
STEP 5 フィード バック		
STEP 1 設 定	次年度に目指す子どもの姿/観点と行動	

しなのきFinder開発に寄せて

信州大学学術研究院教育学系准教授 高橋 史

子どものためのより良い教育・支援に常に必要なのは、多面的アセスメントです。学校の先生も、保護者も、子どもに良い環境を整えてあげたいと思うときには、いつも子どものことを知ろうとします。子どものことをよく見て、本人の声を聞こうとします。子ども本人が感じていることを教育・支援に活かすのは、とても大切な活動です。

しかし、子どもはいつも自分が思っていることを言葉にできるわけではなく、直接は言えないこともあるかもしれません。直接は言えないこと、うまく言葉にできないこと、それらを表現するのを助けるのが、しなのきFinderです。多面的アセスメントの中のひとつとして、しなのきFinderを子どもと大人のコミュニケーションの糸口にしていただければと願っています。

しなのきプランⅡ

5 しなのきプランⅡ重点プロジェクト

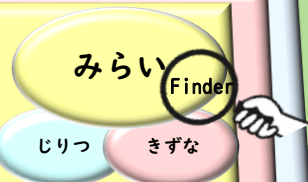
【自学自習の資質能力】が伸張し、子どもが自ら学び共に育っていくことを願い、4つの重点プロジェクトを実施します！



未来プロジェクト

発達段階に応じた教育の推進

- 1 主体的に学ぶ探究的な学びの推進
- 2 非認知能力を育むための取組を支援
- 3 民間企業・地域・学校種間の連携・協働を推進



絆プロジェクト

インクルーシブな学校づくりの推進

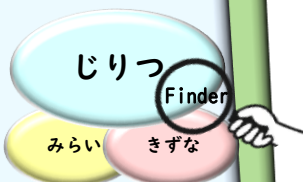
- 1 互いに認め合い多様な個性が活かされる教育の推進
- 2 一人一人の個に応じた支援の充実
- 3 多様な学びの場における学習保障の充実



安全・安心プロジェクト

安全・安心で健やかな成長を支える環境の整備

- 1 子どもファーストな環境づくりを推進
- 2 自分の身を自ら守るための資質・能力の育成を支援
- 3 命と健康を守るための学習環境の整備



充実プロジェクト

教職員の資質・能力の向上

- 1 「学びたい！」が学べる教職員研修の充実
- 2 先生たちのウェルビーイングの実現を支援
- 3 学校や先生たちを指導主事が手厚くサポート



【未来プロジェクト】

子どもの状態を大切にした、発達段階に応じた教育や、学校・家庭・地域とが連携し、子どもたちの未来を拓く力を育成する教育を推進する。

子どもたちが主体的に取り組む探究的な学びの推進

子どもたちの非認知能力を育むための取組を支援

民間企業・地域・学校種間の連携・協働を推進

みらい

じりつ

きずな

○多様な授業スタイルの提案

○子どもが教え合い、学び合う機会の創出を支援

○多様な他者と協働する場面の創出を推進

○運動の楽しさを伝える運動プログラムの提案と講師の派遣

○企業・地域との連携・協働による教育活動の充実

○幼保小中連携による効果的な資質・能力の育成

【主な取組】

諸調査を活用した指導改善

「しなのきFinder」「【自学自習の資質能力】伸張シート」

「GTEC（スコア型英語4技能検定）」

Finder

非認知能力を意識した研究推進

「研究指定校による実践研究」「研究委員会による授業研究」

Finder

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

「探究的な学び×GIGA（令和の学びのスタンダード）」

「1人1台端末の有効活用」

Finder

キャリア教育の充実

「キャリア教育支援懇談会」

企業・地域連携による人材育成

「NSSP（ナガノスーパーサイエンスプロジェクト）」

運動習慣形成のための支援

「N-SAP（ナガノスポーツアクションプロジェクト）」

幼保小の協働による架け橋期の教育の充実

「幼保小接続期カリキュラム」「幼保小連携会議」



【絆プロジェクト】

お互いを認め合い、多様な個性が生かされ、全ての子どもたちが自分のよさを発揮できるようなインクルーシブな学校づくりを推進する。

互いに認め合い多様な個性が生かされる教育の推進

子どもたち一人一人の個に応じた支援の充実

多様な学びの場における学習保障の充実

きずな

じりつ

みらい

- 子どもたちの多様性・包摂性を高める環境づくりを支援
- お互いの価値観を認め合える良好な人間関係づくりを支援
 - 一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実
 - 心のSOSの早期発見、早期対応
 - 専門的な指導・支援につなげる仕組みづくり



【主な取組】

インクルーシブ教育システムの推進

- 「発達支持的生徒指導※をベースとした授業改善」
- 「UD化と合理的配慮を視点にした授業づくり」
- 「パラリンピアンや副学籍児童生徒との交流及び共同学習」

※個性の発見とよさや可能性の伸長、資質・能力の発達を支えるための働きかけ



不登校児童生徒への支援

- 「SaSaLANDを中核とした教育支援センター充実プラン」
- 「フリースクール等民間施設団体との連携」
- 「SSW等専門家を含めたチーム支援体制の構築」



道徳教育・人権教育の推進

- 「考え、議論する道徳教育の推進」
- 「人権教育の視点からの授業づくり」



特別支援教育の充実

- 「特別支援教育に関する校内研修の充実」
- 「一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実」



いじめの未然防止・早期対応

- 「いじめ対応フローを活用した組織的な対応」
- 「いじめ調査委員（外部人材）の派遣」



【安全・安心プロジェクト】

子どもたちの安全・安心で健やかな成長を支える学習環境を整備する。

子どもファーストな環境づくりを推進

自分の身を自ら守るための資質・能力の育成を支援

命と健康を守るための学習環境の整備

じりっ

みらい

きずな

- 学校未来plan子ども会議を活用し、子どもたちの声を反映
- 道徳教育・人権教育の観点を踏まえた、情報モラル教育の推進
- 心身ともに健康で過ごすための教育を推進
- 自分の命を自分で守る力の育成を支援

【主な取組】



学習環境整備

「長野市子ども議会」 「学習チューター事業」
「ランチミーティング等による意見交換」



情報モラル教育（道徳教育・人権教育）

「自ら判断し、正しく行動するための情報モラル教育の推進」



健康教育の推進

「長野市版 新しい水泳学習」
「外部機関等との連携による健康教育の充実」
「現代的な健康課題を踏まえた各校の実践的な取組への支援」



安全防災教育

「実践的な安全防災教育の推進」



安全管理

「学校施設の老朽化対策・長寿命化対策の実施」
「今に合わせた学校安全計画や危機管理マニュアルの見直し」
「安全・安心メールを活用した防災・減災」



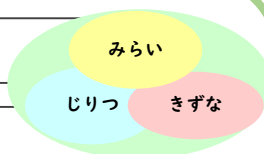
【充実プロジェクト】

教職員がやりがいを実感しながら研究・研修に取り組み、自らの力量を向上できる環境を整える。

「学びたい！」が学べる教職員研修の充実

先生たちのウェルビーイングの実現を支援

学校や先生たちを指導主事が手厚くサポート



- 教職員が主体的に学べる研修講座を構築
- 教職員の声を取り入れたプランの構想
- 教職員が、やりがいを感じながら力量向上に取り組む仕組みづくり
- 余裕と意欲が保てるような働き方改革を推進
- 学校や教職員を支える学校訪問支援



【主な取組】

教育センター研修講座

- 「ニーズに応じた多様で質の高い研修講座の構築」
- 「キャリアステージに応じた、経年研修講座の充実」
- 「専門性と指導力向上に向けた重点研修講座」



教職員による次期プラン構想

- 「『自ら学び共に育つ』学校づくり事業」
- （しなのきプランワーキンググループ【SWG】）



教職員の実践研究

- 「【自学自習の資質能力】の伸張を中核とした研究委員会」
- 「NSSP（ナガノ スーパーサイエンス プロジェクト）」



働き方改革

- 「学校における働き方改革推進のための基本方針の更新&実施」
- 「外部人材の派遣や関係機関との連携による業務の適正化」

指導主事派遣による学校訪問支援

- 「学校における授業改善をサポートする対話型訪問支援」
- 「学校の諸課題を支援する『さっと学援隊』による訪問支援」
- 「多様なニーズに臨機応変に対応する『しなのき派遣』」



子どもたちが安心して過ごせる環境づくり

信州大学学術研究院教育学系准教授 茅野 理恵

子どもたちが心身ともに脅かされることなく、安心安全な生活を送ることによってどのようなことが可能となるのでしょうか。これまでの研究で、罰が存在しない環境で安心して失敗することができる心理的安全性の高い集団では、間違いを恐れることなく前向きな気持ちで様々な難題にチャレンジし、その結果高いパフォーマンスを発揮することが示されています。また、人は安心を実感した際に、情緒的に安定し、寛容性や意欲を高め、持続力や問題解決力も向上することが明らかとなっています。そしてこれらは、他者との信頼関係を構築することにもつながる姿だと言えます。

「しなのきプランⅡ」では、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりが、全ての学びの土台となるという理念に立って、この実現に向けた取り組みが重視されています。まずは、子どもの環境である大人が、他者を脅かさない存在となるために、自らのもつ信念や価値観といったフィルターを知ることや心理的な安定を維持・促進することを通して、より多角的な視点からの子ども理解を可能にしていきたいと考えます。

この「しなのきプランⅡ」に込められた思いを、先生も保護者も地域の人々も皆が共有し、実現のために協働することによって、すべての子どもたちが安心を実感できる日々を積み重ねていけることを願っています。

長野市のインクルーシブな教育に向けて

信州大学学術研究院教育学系准教授 下山 真衣

インクルーシブ教育は、人権、多様性の尊重、障害の社会モデル、公平性といった社会運動を背景として発展してきた教育理念や哲学です。そのため、教育する内容や方法が決まっているわけではありません。インクルーシブ教育は「子どもたちが地域の学校で教育を受ける権利を保障するために教育システムを変革するプロセス」と定義されます。また、一人一人の子どもが地域や学校に包摂され、所属感を持つこと、共に教育を受ける中で子どもたちが互いに認め合うような学校風土を作ることがインクルーシブ教育では重視されます。

「しなのきプランⅡ」では、『絆プロジェクト』として「互いに認め合い多様な個性が生かされる教育」が掲げられています。インクルーシブ教育を通して、子どもたちは自分と異なる多様な価値を持つ仲間がいることを知り、活動や対話を通して学びや楽しみを共有し、ときには対立を経て、どこかで仲間と折り合うことを学んでいくと思います。これは簡単なことではないですが、とてもやりがいのあることだと言えます。「しなのきプランⅡ」は、子どもたちが未来に向けて新しい価値や体験を創造する大きなチャンスを提供する大事な土台となると考えています。

しなのきプランⅡ 評価指標と目標

評価指標と目標

【未来プロジェクト】

みらい

じりつ

きずな

※現状（令和５年度）の数値が確定していない項目については、暫定的に（令和４年度）の数値を記載

評価指標 ①		全国学力・学習状況調査 各教科の全国比			
校種／教科		現状 (令和５年度)	令和６年度	令和７年度	目標 (令和８年度)
小学校	国語	99.7			全国比100以上
	算数	99.2			
	理科				
中学校	国語	99.9			
	数学	98.0			
	理科				
	英語	94.3			

評価指標 ②	自学自習の資質能力に関する質問５項目（平均） (1) 自分には、よいところがあると思う。 (2) 将来の夢や希望をもっている。 (3) 家で、自分で計画を立てて勉強をしている。 (4) 地域や社会をよくするために何をすべきか考えている。 (5) 学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。 (全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の肯定的な回答の割合)			
	現状 (令和５年度)	令和６年度	令和７年度	目標 (令和８年度)
小学校	80.8% (103.0)			全国比100以上
中学校	67.4% (97.6)			

評価指標 ③	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。 (全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の肯定的な回答の割合)			
	現状 (令和５年度)	令和６年度	令和７年度	目標 (令和８年度)
小学校	80.3% (101.9)			全国比100以上
中学校	77.9% (98.4)			

評価指標 ④	授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う。 (全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の肯定的な回答の割合)			
	現状 (令和５年度)	令和６年度	令和７年度	目標 (令和８年度)
小学校	70.5% (94.3)			全国比100以上
中学校	71.3% (98.2)			

しなのきプランⅡ 評価指標と目標

評価指標と目標

【未来プロジェクト】

みらい

じりつ

きずな

評価指標⑤	CEFRのA1レベル（英検 3 級程度）の中学 3 年生の割合		
	（英語教育実施状況調査）		
現状 （令和 4 年度）	令和 6 年度	令和 7 年度	目標 （令和 8 年度）
48.8% （県は46.2%）			60%以上

評価指標⑥	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の全国比			
	（全国体力・運動能力、運動習慣等調査）			
	現状 （令和 5 年度）	令和 6 年度	令和 7 年度	目標 （令和 8 年度）
小 5 男子	101.8			全国比100以上
小 5 女子	99.2			
中 2 男子	103.0			
中 2 女子	101.4			

評価指標⑦	授業以外の 1 週間の運動時間が60分以上の児童生徒の全国比			
	（全国体力・運動能力、運動習慣等調査の児童生徒質問紙）			
	現状 （令和 5 年度）	令和 6 年度	令和 7 年度	目標 （令和 8 年度）
小 5 男子	101.3			全国比100以上
小 5 女子	97.0			
中 2 男子	97.1			
中 2 女子	93.2			

評価指標⑧	運動やスポーツをすることが好きと答える児童生徒の全国比			
	（全国体力・運動能力、運動習慣等調査の児童生徒質問紙）			
	現状 （令和 5 年度）	令和 6 年度	令和 7 年度	目標 （令和 8 年度）
小 5 男子	102.3			全国比100以上
小 5 女子	102.0			
中 2 男子	100.2			
中 2 女子	99.0			

評価指標⑨	幼保園の保育参観、小学校の授業参観の実施			
	（学校経営概要）			
	現状 （令和 5 年度）	令和 6 年度	令和 7 年度	目標 （令和 8 年度）
保育参観	54/54			全ての小学校 で実施
授業参観	51/54			

しなのきプランⅡ 評価指標と目標

評価指標と目標

【絆プロジェクト】

きずな

じりつ

みらい

評価指標 ⑩	学校は楽しく、安心できる場所になっている。 (学校評価 児童生徒アンケートの肯定的な回答の割合)		
現状 (令和 5 年度)	令和 6 年度	令和 7 年度	目標 (令和 8 年度)
80.1%			現状を上回る

評価指標 ⑪	お子さんは学校生活が楽しいと感じていると思いますか。 (学校評価 保護者アンケートの肯定的な回答の割合)		
現状 (令和 5 年度)	令和 6 年度	令和 7 年度	目標 (令和 8 年度)
87.0%			現状を上回る

評価指標 ⑫	個別の指導計画の作成を必要とする児童生徒のうち、実際に個別の指導計画が作成されている児童生徒の割合 (特別支援教育に関する体制整備状況等調査アンケート)		
現状 (令和 5 年度)	令和 6 年度	令和 7 年度	目標 (令和 8 年度)
99.2%			100%

評価指標 ⑬	個別の教育支援計画の作成を必要とする児童生徒のうち、実際に個別の教育支援計画が作成されている児童生徒の割合 (特別支援教育に関する体制整備状況等調査アンケート)		
現状 (令和 5 年度)	令和 6 年度	令和 7 年度	目標 (令和 8 年度)
98.3%			100%

評価指標 ⑭	地域の人々、高齢者や障がい者、外国人などとの対話や交流の機会を設定している。 (学校評価 教職員アンケートの肯定的な回答の割合)		
現状 (令和 5 年度)	令和 6 年度	令和 7 年度	目標 (令和 8 年度)
82.3%			現状を上回る

評価指標 ⑮	不登校児童のうち、学校内外の専門機関等で相談・指導等を受けていない児童生徒の割合 (児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査)			
	現状 (令和 4 年度数値)	令和 6 年度 (令和 5 年度数値)	令和 7 年度 (令和 6 年度数値)	目標 (令和 7 年度数値)
小学校	18.7% (全国 33.0%)			全国を下回る
中学校	28.8% (全国 37.9%)			

評価指標と目標

【安全・安心プロジェクト】

じりっ

みらい

きずな

評価指標 ⑩ 【再掲】	学校は楽しく、安心できる場所になっている。 (学校評価 児童生徒アンケートの肯定的な回答の割合)		
現状 (令和 5 年度)	令和 6 年度	令和 7 年度	目標 (令和 8 年度)
80.1%			現状を上回る

評価指標 ⑬	学校は地域の方とともに子どもたちの安全確保のための取組を行っている。 (学校評価 保護者アンケートの肯定的回答の割合)		
現状 (令和 5 年度)	令和 6 年度	令和 7 年度	目標 (令和 8 年度)
80.4%			現状を上回る

評価指標 ⑰	子どもたちの健康管理や体力向上のための取り組みに努力している。 (学校評価 教職員アンケートの肯定的な回答の割合)		
現状 (令和 5 年度)	令和 6 年度	令和 7 年度	目標 (令和 8 年度)
92.3%			現状を上回る

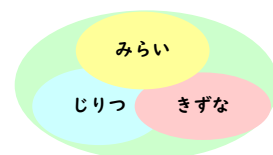
評価指標 ⑱	学校は、子どもたちの健康管理や体力向上のための取り組みに努力している。 (学校評価 保護者アンケートの肯定的な回答の割合)		
現状 (令和 5 年度)	令和 6 年度	令和 7 年度	目標 (令和 8 年度)
78.2%			現状を上回る

評価指標 ⑲	健康三原則（運動、食事、休養及び睡眠）の大切さを、様々な場面で計画的に伝えようとしている学校の割合 (全国体力・運動能力、運動習慣等調査 学校質問紙)			
	現状 (令和 5 年度)	令和 6 年度	令和 7 年度	目標 (令和 8 年度)
小学校	44.4% (107.2)			全国比100以上
中学校	30.4% (99.0)			

評価指標 ⑳	道徳の授業を受けた達成感 (学校評価 児童生徒アンケートの肯定的回答の割合)			
	現状 (令和 5 年度)	令和 6 年度	令和 7 年度	目標 (令和 8 年度)
小学校	86.0%			現状を上回る
中学校	80.8%			

評価指標と目標

【充実プロジェクト】



全国学力・学習状況調査 学校質問紙の5項目※に対する肯定的な回答の割合					
評価指標 ②	※ 評価指標②の5項目と対応した学校質問紙の設問を抽出し、測定。 (1) 学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行っている。 (2) 将来就きたい仕事や夢について考えられるように指導をしている。 (3) 総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導を行っている。 (4) 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを見付けられるよう支援している。 (5) 知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に想像したりすることに向かう過程を重視した学習を計画的に取り入れている。				
	項 目	現状 (令和5年度)	令和6年度	令和7年度	目標 (令和8年度)
	(1) 一人一人のよい点を認める	100% (101.1)			全国比100以上
	(2) 将来の仕事や夢について指導	87.1% (100.7)			
	(3) 探究の過程を意識した指導	85.2% (91.9)			
	(4) 学級全員で取り組む課題やテーマの設定	94.4% (97.3)			
	(5) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	90.8% (100.4)			
中学校	(1) 一人一人のよい点を認める	95.8% (97.5)			全国比100以上
	(2) 将来の仕事や夢について指導	91.7% (95.9)			
	(3) 探究の過程を意識した指導	91.6% (99.5)			
	(4) 学級全員で取り組む課題やテーマの設定	87.5% (91.1)			
	(5) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	83.4% (95.8)			

「研修講座で学んだことを自校の教育活動に生かしたい」と回答した割合			
評価指標 ②	(講座アンケート 肯定的回答の割合)		
現状 (令和5年度)	令和6年度	令和7年度	目標 (令和8年度)
99.6%			100%

1か月あたりの時間外勤務時間の平均				
(教職員の勤務時間等調査)				
評価指標 ③	現状 (令和5年度)	令和6年度	令和7年度	目標 (令和8年度)
4～7月	47時間59分			45時間を下回る
年間	41時間54分 (4～12月)			

主体的に将来につながる活動を行おうとする意識を高める

私は、アメリカと日本の大学入試の違いとそこへ向かう意識の違いについて研究してきました。結果として、アメリカでは、リーダーシップ、芸術、スポーツ、人間性など様々な要素が求められ主体的に将来につながる活動を行おうとする意識があり、進路に関して周りの大人の働きかけが活発だという事が分かりました。

学校視察の際一番驚いたことは、生徒が数学の授業中、先生に質問したり友達と意見交換したりしながら授業が進行していたことです。私はアメリカの学生と交流していく中で、自分の得意や個性を自覚してどのようなことを頑張りたいのかを考える、主体性と自己選択の力が高いと感じました。

一人一人の得意な事や個性を生かした教育が充実し、主体性と自己選択の力を高めていくことが大切であると感じました。

(長野市立中学校卒業生 Tさん)

知識重視の教育から主体性を伸ばす教育への転換

私は、アメリカ短期研修に参加し、「日本とアメリカの宿題の違い」を中心に、教育方針の違いについて研究しました。この研究を通して感じた2国間の教育方針には、生徒の意見や考えを重要視する度合いに違いがあると考えました。アメリカの学校の授業では、生徒同士が自由に意見共有ができる環境があり、発言をする姿も多く見られました。宿題についてもプレゼンテーションやワークシートなど、生徒の意見や考えを知ることが目的のものが多く感じました。

一方、日本の教育方針は知識を身に付ける場面が多く、学力向上が目的だと感じます。日本でも、子どもたちの主体性が重要視されてきている今、アメリカのような教育方針により生徒の主体性を伸ばしていくことが大切だと思います。

授業の中で意見共有の場や、発言の機会を増やすことは、生徒の主体性を伸ばすだけでなく、積極性の向上や生徒同士の交流にもつながり、生徒の能動的な活動が増え、学校がより良くなっていくと思います。

(長野市立中学校卒業生 Kさん)

しなのきプランⅡ策定にご協力いただいた皆様

信州大学学術研究院教育学系

准教授 高橋 史 氏

准教授 三和秀平 氏

准教授 茅野理恵 氏

准教授 下山真衣 氏

教 授 島田英昭 氏

岡山大学教育推進機構

准教授 中山芳一 氏

お茶の水女子大学

名誉教授 耳塚寛明 氏

【参考】国の教育振興基本計画

国

第4期教育振興基本計画（R5～R9）



教育振興 基本計画

めまぐるしく変化する社会で、一人一人が社会の担い手となること
そして社会全体のウェルビーイングの向上を目指し、
様々な関係者との対話を重ね、教育の羅針盤となる計画を作りました。

2つのコンセプト

持続可能な社会の 創り手の育成

- 将来の予測が困難な時代に、未来に向けて自らが社会の創り手となり、持続可能な社会を維持・発展させていく人材を育てる
- 主体性、リーダーシップ、創造力、課題設定・解決能力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成

日本社会に根差した ウェルビーイングの向上

- 多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるよう、教育を通じてウェルビーイングを向上
- 幸福感、学校や地域でのつながり、協働性、利他性、多様性への理解、社会貢献意識、自己肯定感、自己実現等を調和的・一体的に育む

文部科学省「教育振興基本計画リーフレット」より引用

平成29年施行【義務教育の段階における普通教育に相当する 教育の機会の確保等に関する法律】

- ・ 不登校児童生徒が行う多様な学習活動の実情を踏まえ、個々の状況に応じた必要な支援
- ・ 国、地方公共団体、民間団体等の密接な連携 など

令和元年10月25日

【不登校児童生徒への支援の在り方について（文部科学省通知）】

- ・ 「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、
社会的に自立することを目指す
- ・ 教育支援センター、不登校特例校、民間施設、ICTを活用した学習支援など
多様な教育機会を確保 など

令和5年施行

【こども基本法】

- ・ 全てのこどもが、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指す
- ・ こども施策の基本理念の他、こども大綱の策定やこども等の意見の反映 など

【参考】県の教育振興基本計画

長野県

第4次長野県教育振興基本計画（R5～R9）

「個人と社会のウェルビーイングの実現」

～一人ひとりの『好き』や『楽しい』、『なぜ』をとことん追求できる『探究県』長野の学び～

政策の柱

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

4つの柱

- 01 一人ひとりが主体的に学び他者と協働する学校をつくる
- 02 一人の子どもも取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境をつくる
- 03 生涯にわたり誰もが学び合える地域の拠点をつくる
- 04 文化芸術・スポーツの身近な環境を整え、共感と交流が生まれる機会をつくる

第4次長野県教育振興基本計画 コンセプトブック



長野県教育委員会

成果指標は、「客観的指標」に加え、幸福感や自己実現・自己受容、協働性・向社会性といった主観に基づく要素の測定を「主観的指標」として設定し、ウェルビーイングの実現度合いを実体的に把握する。



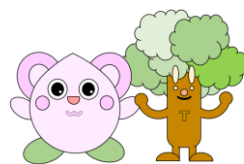
探究って何？

個人と社会のウェルビーイングを実現するためには、自ら課題や問いを見出し、その解決を目指して、仲間と協働しながら新たな価値を創造したり、一人ひとりが自分の“好き”なこと、“楽しい”こと、“なぜ”と思うことに浸り追求する「探究」が重要です。そのためには、人が生まれながらにして持っている「探究心」を学校においても社会に出てからも絶やさず伸ばし続けること、学校が探究する楽しさ、ワクワク感が実感できる場所であることが大切です。学びを、知識やスキルの習得に偏ったものから、探究し続ける中で、知識やスキルを獲得し、他者と協働しながら自分にしかない「知の体系」を構築していくものに転換していかなければならないと考えます。

「第4次長野県教育振興基本計画コンセプトブック」より引用

長野市教育基本理念

「明日を拓く深く豊かな人間性の実現」



目指す子どもの姿

自ら学び 共に育つ

～ウェルビーイングの実現～



子どもたちの【自学自習の資質能力】の伸張を支援

学習観・子ども観の転換



未来プロジェクト

発達段階に応じた
教育の推進

絆プロジェクト

インクルーシブな
学校づくりの推進

安全・安心プロジェクト

安全・安心で健やかな
成長を支える環境の整備

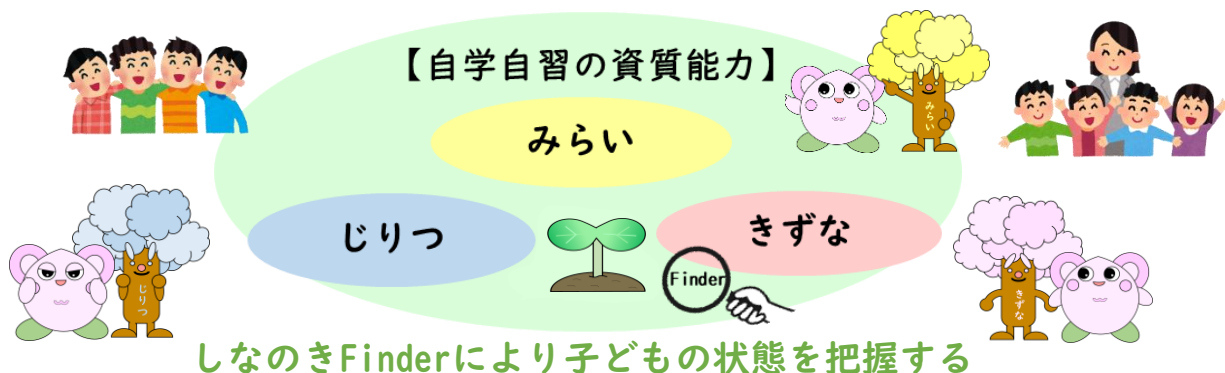
充実プロジェクト

教職員の資質・能力の向上



「ICTの有効活用」「家庭・地域・学校・企業による協働」
⇒社会に開かれた教育課程の実現

【子どもを観る】 【子どもの声を聴く】 【子どもと対話する】



しなのきFinderにより子どもの状態を把握する

学習観・子ども観の転換

FEEL NAGANO, BE NATURAL

この街で、わたしらしく生きる。長野市

